

身体的拘束適正化のためのマニュアル

- 基本方針
 - 尊厳の尊重: 利用者の尊厳と人権を最優先に考え、身体拘束は最終手段とする。
 - 安全確保: 利用者および他者の安全を確保するために必要な場合のみ、身体拘束を検討する。
- 身体拘束の適用基準
 - 切迫性: 利用者または他者の生命や身体に対する即時の危険が存在する場合。
 - 非代替性: 他の介入方法が効果的でない場合。
 - 一時性: 身体拘束は一時的な措置であり、必要最小限の時間に留める。
- 手続き
 - 事前評価:
 - 利用者の状態を詳細に評価し、身体拘束の必要性を判断する。
 - 他の介入方法（例：環境調整、薬物療法、行動療法）を試みる。
 - 家族および関係者への説明:
 - 身体拘束の理由、方法、期間について家族および関係者に説明し、同意を得る。
 - 緊急時には、事後に速やかに説明と同意を得る。
 - 記録と報告:
 - 身体拘束の実施前後の状況、理由、期間、解除のタイミングを詳細に記録する。
 - 身体拘束適正化委員会に報告し、定期的にレビューを行う。
- 身体拘束の実施方法
 - 安全な方法: 利用者に対する身体的・精神的な負担を最小限にする方法を選択する。
 - 定期的な観察: 身体拘束中は定期的に利用者の状態を観察し、必要に応じて介入する。
 - 早期解除: 状況が改善した場合、速やかに身体拘束を解除する。
- 教育と研修
 - 職員教育: 身体拘束の適正化に関する教育を定期的実施し、職員の意識向上を図る。
 - シミュレーショントレーニング: 実際の場面を想定したシミュレーショントレーニングを行い、適切な対応方法を習得する。
- 継続的な改善
 - フィードバックの収集: 利用者、家族、職員からのフィードバックを収集し、マニュアルの改善に役立てる。
 - 定期的な見直し: マニュアルを定期的に見直し、最新の知見や法規制に基づいて更新する。

